



ワールドが千葉県船橋市に開設した「ワールドディストリビューションセンター」



TSIホールディングスの生産・物流の機能子会社TSI・プロダクション・ネットワーク

# ワールド、TSIホールディングス 共同配送スタート

## 物流プラットフォームの構築目指す 関東圏SCCの納品から

ワールドとTSIホールディングスが共同配送を始めた。関東1都6県の駅ビル・ファッションビル・大型SCCの39店舗を対象に、同一倉庫に納品する両社の店舗へ同一トラック便を使って納品する。9月から試験的に実施。10月から本格運用させた。ドライバー不足を要因とする物流会社の運賃値上げが懸念された。アパレル企業側の共同化によって納品物流を効率化する試みだ。今後は大阪・名古屋圏などエリア拡大も含め、対象の商業施設を広げていく。店舗移動の共同化も視野に入れる。

### トラックを集約

この共同配送は、両社の物流センターから商業施設店舗へ商品運ぶトラックを集約し、納品物流の効率化を狙う。関東圏の七つの物流センターから39の商業施設へ納品する商品が対象で、両社の納品物流の約10%とされる。指定業者制度がある百貨店は除き、トラック

### 集約の効果が大きい商業施設を

対象とした。慣例のある開店前、納品が可能な商業施設に絞って、物流会社も絞り込んで取り組みを立ち上げた。両社とも「物流業界のドライバー不足は深刻化しており、運賃を値上げしなければ商品配送ができなくなる事態がリアルに迫ってきた」（坂井隆、TSI・プロダクション・ネットワーク

SCC本部本部長と感じている。ただ、要因は構造的な課題であり、この改革に向けてアパレル企業としてできることをやろう」と共同配送に着手した。大きな物流フローの変更はなく、スタート時の規模では納品物流のトラック集約によるコスト削減は1.5%という。しかし「あるSCCに明日これだけの納品があるという情報が共有できれば、物流会社もトラック・ドライバーの手配が最適化でき、効率化の効果は大きい」

（伊賀浩一、ワールドインフラサービス統括部長）とみる。参加するアパレル企業が増え、物量が増えれば、さらに大きな効率化ができる。より効果が大きいと期待しているのは、店舗移動の共同化だ。物量が増えれば、ドライバー不足が高くなる。大きな値上げが予想され、各商業施設を結ぶルート便を共同化できれば、トラック輸送の効率化効果も大きい。納品物流効率化の次のテーマだ。

### 他社に呼び掛け

共同化は物流改革の重要な手法だが、「業界の物流プラットフォームを作る」という志（伊賀部長）がパートナーには必要だ。逆にその志が共有できれば、条件が異なるアパレル企業とも協業できる。今後、同業他社に参画を呼びかける。ワールドは16年開設した「ワールドディストリビューション

センター」（千葉県船橋市）を拠点にSCC業態の物流業務最適化に取り組んでいる。TSIホールディングスは、TSI・プロダクション・ネットワークを起點に、グループの事業会社の物流改革を進めている。両社は半年以上の時間をかけ議論し、双方のトップの合意も得た。トップダウン、ボトムアップ双方が揃って可能になった共同配送だ。新たな取り組みは「まず実績を積み、仲間を増やし」（坂井本部長）、対象を広げながらアパレル物流プラットフォーム構築に向かっていると述べている。